

■第 15 号■ 2010 年 4 月 30 日発行

附属産学・地域連携センターでは、センターが中心となって参加した行事やイベントの活動報告、知的財産講義等の開催のお知らせについて、センターメールマガジンを定期的に発行しております。メールマガジンは、学内の教職員ならびに学外の希望者の方を対象に発行しておりますので、お近くに配信希望の方がいらっしゃいましたら、メールマガジン担当 (renkei@sapmed.ac.jp) までご連絡頂きますようお願いいたします。

メールマガジン第 15 号では、センター各部の業務内容をお届け致します。

▼△ 目次 △▼

1. センター各部門業務紹介
2. センター所長から

1. センター各部門業務紹介

●○ 産学地域連携部門 ○● (代表内線：2175)

産学地域連携部門は、桂川主査以下 11 名が従事し、国（文部科学省・厚生労働省）や民間財団などからの研究費の申請手続き・経理事務を担当しています。また、共同研究・受託研究などにおける企業との窓口になり、契約などの手続事務およびその経理・管理も行っています。

●○ 知的財産管理室 ○● (代表内線：2108)

知的財産管理室は、札幌医大で生み出された発明や研究成果物（抗体や細胞株、

ベクター等）などの知的財産の管理を行っております。

特許出願の手続き、研究成果物の学外提供、受領にあたっての契約のほか、企業等、学外機関との連携に必要な各種手続き（秘密保持契約の締結や研究成果の取り扱いを含む各種調整）、研究成果のイベント展示・紹介による情報発信等、産学官連携推進のための様々な活動を行っております。

特許出願に関するご相談や、企業や他大学との共同・受託研究でお困りのことなど随時対応しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

なお、学会や論文等により公表された後では、特許権の取得が難しくなります。

もし特許取得の可能性がある研究成果が見出された場合には、是非お早めにご相談ください。

●○ 寄附金部門 ○● (代表内線：2228)

寄附金部門では、医学教育研究の充実・発展に役立てる為、法人や個人の皆さまからご協力・ご支援をお願いしております。また寄附金の中から、毎年、学術助成事業を執行し、本学研究者への医学研究振興のための一翼をになっております。寄附金のご案内につきましては、ホームページをご覧ください。御活用下さい。

■□産学官連携コーディネーター□■ (代表内線：2108)

平成 21 年度まで小樽商科大学と札幌医科大学兼任の文部科学省産学官連携コーディネーターとして活動してまいりましたが、本年度より札幌医科大学専属となりました。

札幌医科大学の研究・教育活動における競争的資金獲得や技術移転、社会貢献の支援を目的として活動しており、自治体や産業界との連携についても、担当しております。

具体的には、大学の研究成果の収集と自治体や企業に対して定期的な情報提供及びニーズの聞き取りを行っております。また、シーズ集作成や展示会等による研究成果のPR、各種研究助成事業の情報提供と申請支援、技術移転先や共同研究のパートナーの探索などの支援業務も行っております。さらに、小樽商科大学、室蘭工業大学、札幌医科大学、道総研工業試験場が連携して設立した北海道医療

産業研究会の事務局を務めており、医療・福祉に関連する用具・機器の研究開発及び実用化の支援を行っております。

佐藤 (hitosato@sapmed.ac.jp) まで、どうぞお気軽にご連絡ください。

以上の業務に関しまして、皆様とのご相談に随時対応しておりますので、御不明な点が御座いましたら、担当部門まで御連絡下さい。

2. センター所長から

本学では、活発な教育・研究・臨床活動から、社会に還元できる価値の高い知的財産が生み出されています。それらの成果を、人々の健康の増進と医療の向上につなげてゆくためには、知的財産の有効活用と産学連携による実用化に努めることが必要です。そのため、当センターでは、産学地域連携部門、知的財産管理室（知財室）、寄附金部門の3つの部門を設置し、研究者、連携する企業や自治体の支援を行っています。

産学地域連携部門は、桂川主査以下9名が従事し、国・民間を含むすべての外部資金の申請手続き・経理事務を担当しています。また共同研究・受託研究などの申し出を企業から受ける窓口になり契約などの事務およびその経理・管理事務を行っています。外国企業との契約業務もあり、そのため英語能力の高い所員が数名配置されています。知財室は、大学教職員が生み出した特許や有体物（抗体、細胞等）など知的財産の管理や発明相談、特許の国内外への出願、MTAなどの契約などの業務の他に、産学官連携、学学連携の推進などに係る様々な業務を行っています。大学研究者のシーズを調査し、研究費獲得のバックアップや企業との関係を取り持つコーディネート活動も行っています。副所長の石埜准教授は、弁理士の資格を有し、大学の知財全体に責任を持って対応しています。産学官連携コーディネーターの佐藤特任講師、及び村田主査以下5名がこの部門に従事しています。さらに Translational Research(TR)を推進するために、小野寺特任助教がこの部門に加わっています。寄附金部門は、これまで札幌医科大学振興財団が行ってきた寄附金の経理・管理事務、研究振興助成業務を引き継いでいます。山下

専門員以下6名が従事しています。

以上の3つの部門が扱うお金は、科研費、共同・受託研究費、寄附金などを含めると約10億円になります。出入金を考えるとその倍のお金の流れを扱うことになり、その責任は重大です。研究者の方や一緒に研究開発を行う企業の方には「そんな面倒な書類が必要なの？」とよく問い合わせがありますが、法人の金庫に入ったお金は公金ですので、その使用に当たっては説明責任が生じます。できるだけ皆さんにご負担をおかけしないよう努めるつもりですが、必要な書類の作成には協力をお願いいたします。

以上、附属産学・地域連携センターの各部門を紹介しました。当センターは、産学・学間の共同研究や寄附講座・研究部門の設置、大学間の教育・研究交流、地域と連携したフィールドワークの実践などを積極的に推進し、研究に関するすべての情報の集積と学内外に発信を行うハブ的役割を果たす所存です。

☆編集後記☆

今年度最初のメールマガジンでは、附属産学・地域連携センター各部門の業務について、皆様にお知らせ致しました。今後も、知的財産講義開催のお知らせや各イベント参加報告を随時更新していく予定です。

5月になりましたが、寒暖の差が激しい毎日が続いています。皆様どうぞご自愛下さい（齊藤）。

■ 附属産学・地域連携センターメールマガジン 第15号

担当 佐藤 準（産学官連携コーディネーター）・齊藤 亜耶

発行 札幌医科大学 附属産学・地域連携センター

URL <http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

メール renkei@sapmed.ac.jp